

IEC活動推進会議議長就任にあたって



富士通株式会社 岡田 英人

6月2日に開催されました第33回 IEC 活動推進会議 (IEC-APC) 総会で、ご指名・ご承認を頂き、2023 年度の IEC-APC 議長に就任致しました岡田英人でございます。1 年間、議長として皆様と共に IEC 標準化推進活動に参画させていただけることを誠に光栄に思っております。

2022 年末より、ChatGPT をはじめとする生成 AI への注目が急速に高まっています。幅広い産業分野で AI の利活用が進み、様々な社会課題の解決促進が期待される一方で、AI を悪用した偽情報の蔓延といった AI をめぐるリスク・懸念への対応も急務です。2023 年 5 月に行われた G7 広島サミットでは、G7 の価値に沿った AI ガバナンスの必要性が確認され、国際的な AI のルールづくりに向けて閣僚級による議論の枠組み「広島 AI プロセス」の設置が合意されました。G7 広島首脳コミュニケによりますと、AI の他、量子情報科学技術やメタバースなどの没入型技術等の新しいデジタル技術の国際的なガバナンスへの課題も挙げられています。

一方、IEC の活動に目を向けますと、量子技術とメタバースに関して、標準化評価グループとして SEG 14 と SEG 15 が 2022 年に設置され、各々活動が行われています (SEG 15 はその後 ISO との Joint SEG に移行)。まさに、G7 広島サミットでガバナンスの必要性が確認されたデジタル技術について、IEC において国際標準化の第一段階としての活動が行われているところです (AI については、ISO/IEC JTC 1/SC 42 が標準化を実施中)。

2023 年 6 月に、「日本型標準加速化モデル」が経済産業省から発表されました。同モデルの作成にあたり、私は縁あって日本産業標準調査会 (JISC) 基本政策部会の委員として議論に参加させていただきました。国際標準化は、技術に対するルールづくりのみならず、民間企業の経営戦略の手段としての側面も有しています。「日本型標準加速化モデル」では、新たな価値軸を生み出すための市場創出戦略の有力なツールとして国際標準化を取り上げ、標準化人材の育成・確保、経営戦略や研究開発戦略における標準化の位置づけ、認証産業の活用の在り方、サービス標準化の活用など、標準化活動の取組みのあるべき姿と、その実現に向けた課題と施策が示されています。

「日本型標準加速化モデル」にも説明があります通り、IEC での国際幹事について、日本は世界第 3 位となる 23 ポストを占め、作業部会 (WG) では約 16% に相当する議長ポストを確保しています。また、今年度は、TC 122 (UHV 交流送電システム) で国際幹事としてご活躍されている財満英一氏がトーマス・エジソン賞を受賞されました。この賞は毎年全世界で最大 9 名のみにも与えられる荣誉ある賞です。IEC における日本の高いプレゼンスは、ひとえにご関係各位のご努力の賜物と存じます。

IEC-APC では、広報・人材育成事業において、人材育成セミナーや人材育成プログラム(ヤンプロ)などの支援を通じて、標準化人材の育成に引き続き力を入れるとともに、IEC 上層委員会にてご活躍されているエキスパートの活動支援なども通じて、標準化の取り組みの加速を支援してまいります。

末筆ながら、今後共引き続き IEC-APC へご支援、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくごお願い申し上げます。

以上